

(12) 特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局

(43) 国際公開日
2015年10月8日(08.10.2015)



(10) 国際公開番号

WO 2015/151585 A1

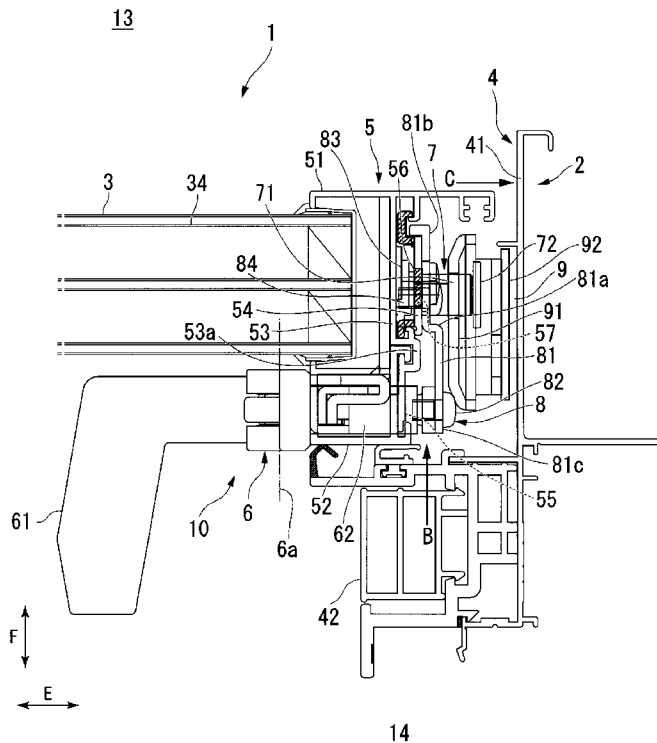
- (51) 国際特許分類:
E05C 1/06 (2006.01) *E05B 65/06* (2006.01)
- (21) 国際出願番号: PCT/JP2015/053532
- (22) 国際出願日: 2015年2月9日(09.02.2015)
- (25) 国際出願の言語: 日本語
- (26) 国際公開の言語: 日本語
- (30) 優先権データ:
特願 2014-074503 2014年3月31日(31.03.2014) JP
- (71) 出願人: 株式会社 L I X I L (LIXIL CORPORATION) [JP/JP]; 〒1368535 東京都江東区大島二丁目1番1号 Tokyo (JP).
- (72) 発明者: 飯盛 光洋 (IMORI Mitsuhiro); 〒1368535 東京都江東区大島二丁目1番1号 株式会社 L I X I L 内 Tokyo (JP). 大東 正樹 (OOHIGASHI Masaki); 〒1368535 東京都江東区大島二丁目1番1号 株式会社 L I X I L 内 Tokyo (JP). 内田 京助 (UCHIDA Kyosuke); 〒1368535 東京都江東区大島二丁目1番1号 株式会社 L I X I L 内 Tokyo (JP).

- (74) 代理人: 棚井 澄雄, 外 (TANAI Sumio et al.); 〒1006620 東京都千代田区丸の内一丁目9番2号 Tokyo (JP).
- (81) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の国内保護が可能): AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BH, BN, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CL, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DK, DM, DO, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN, IR, IS, KE, KG, KN, KP, KR, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LU, LY, MA, MD, ME, MG, MK, MN, MW, MX, MY, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PA, PE, PG, PH, PL, PT, QA, RO, RS, RU, RW, SA, SC, SD, SE, SG, SK, SL, SM, ST, SV, SY, TH, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, ZA, ZM, ZW.
- (84) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, GH, GM, KE, LR, LS, MW, MZ, NA, RW, SD, SL, ST, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, RU, TJ, TM), ヨーロッパ (AL, AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV, MC, MK, MT, NL, NO, PL, PT, RO, RS, SE, SI, SK, SM, TR), OAPI (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, KM, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

[続葉有]

(54) Title: CRÉMONE-BOLT STRUCTURE AND SASH PROVIDED WITH CRÉMONE-BOLT STRUCTURE

(54) 発明の名称: グレモンハンドル構造およびグレモンハンドル構造が設けられたサッシ



(57) Abstract: This crémone-bolt structure, which is provided on a sash that comprises a sash frame and a shoji screen that is supported by said sash frame so as to be able to rotate about a hinge, is provided with the following: a crémone-bolt handle provided on an indoor-side side surface of the lock stile or rail of the shoji screen; a crémone-bolt rod that protrudes towards the sash frame from the lock stile or rail, is provided with a locking section that can lock the shoji screen and the sash frame, and is provided on the outdoor side of the crémone-bolt handle in the depth direction; and a linkage that links the crémone-bolt rod to the crémone-bolt handle.

(57) 要約: サッシ枠と、該サッシ枠に吊元を軸として回転可能に支持されるサッシ障子とを備えるサッシに設けられるグレモンハンドル構造は、サッシ障子の戸先框の室内側見込み面に設けられたグレモンハンドルと、戸先框からサッシ枠側へ突出し、サッシ障子とサッシ枠とを係止可能な被係止部が設けられ、グレモンハンドルよりも見込み方向において室外側に設けられたグレモン連動バーと、該グレモン連動バーをグレモンハンドルに連動させる連動部と、を備える。

WO 2015/151585 A1

添付公開書類:

— 国際調査報告 (条約第 21 条(3))

明 細 書

発明の名称：

グレモンハンドル構造およびグレモンハンドル構造が設けられたサッシ 技術分野

[0001] 本発明は、縦送り出し窓や横送り出し窓などのサッシ障子が、その吊元を軸として回動可能に取り付けられたサッシに設けられるグレモンハンドル構造およびグレモンハンドル構造が設けられたサッシに関する。

本願は、2014年3月31日に、日本に出願された特願2014-074503号に基づき優先権を主張し、その内容をここに援用する。

背景技術

[0002] 従来、サッシ障子はその吊元を軸として回動自在に取り付けられた縦送り出し窓や、横滑り出し窓などには、吊元側と反対側に位置する戸先框にグレモンハンドルが設けられていて、グレモンハンドルと連動するグレモン連動バーが戸先框側の縦枠に係止されることで施錠される構成が知られている（例えば、特許文献1参照）。

また、サッシ障子の戸先框の見付け方向の寸法を小さくし、サッシ障子が開口部を閉鎖している状態において、戸先框がサッシ枠と見込み方向に重なるような隠し框構造が知られている（例えば、特許文献2参照）。このような隠し框構造は、見栄えを良くすることができるとともに、例えばアルミニウムと樹脂の複合サッシなどに適用すると、断熱性能を更に高めることができる。

先行技術文献

特許文献

[0003] 特許文献1：日本国特開2003-113688号公報

特許文献2：日本国特開2010-285836号公報

発明の概要

発明が解決しようとする課題

[0004] ここで、隠し框構造の縦送り出し窓のサッシにグレモンハンドルが設けられる場合、戸先框の室内側にグレモンハンドルとグレモン連動バーとが平面視において見付け方向に並んで配列されている。このため、戸先框の見付け方向の寸法は、グレモンハンドルとグレモン連動バーとが、平面視において見付け方向に並んで配列可能な寸法である必要がある。そのため、それぞれの寸法を小さくすることができず、断熱性能を向上させることができない。

[0005] また、グレモン連動バーは、サッシ障子が吊元を軸として回転する際には、縦枠と対向する側に位置する先端部のピンが縦枠側に膨む円弧上の軌跡を描くため、縦枠と当たらないようにピンと縦枠との間にクリアランスをとる必要がある。隠し框構造の場合は、戸先框の見込み方向の室内側にグレモンハンドルおよびグレモン連動バーが設けられている。そのため、戸先框の見付け方向の縦枠側にグレモン連動バーが設けられている場合と比べて、サッシ障子が吊元を軸として回転する際に、ピンが縦枠側に大きく膨らむ円弧状の軌跡を描く。従って、ピンと縦枠との間のクリアランスを大きくする必要があり、断熱性能が低くなる。

[0006] 本発明は、断熱性能を向上させることができるグレモンハンドル構造およびグレモンハンドル構造が設けられたサッシを提供する。

課題を解決するための手段

[0007] 本発明の第1態様は、グレモンハンドル構造であって、サッシ枠と、該サッシ枠に吊元を軸として回転可能に支持されるサッシ障子とを備えるサッシに設けられるグレモンハンドル構造において、前記サッシ障子の戸先框の室内側見込み面に設けられたグレモンハンドルと、前記戸先框から前記サッシ枠側へ突出し、前記サッシ障子と前記サッシ枠とを係止可能な被係止部が設けられ、前記グレモンハンドルよりも見込み方向において室外側に設けられたグレモン連動バーと、該グレモン連動バーを前記グレモンハンドルに連動させる連動部と、を備える。

[0008] 上記第1態様のグレモンハンドル構造によれば、グレモン連動バーは、グレモンハンドルよりも見込み方向の室外側に配置されている。これにより、

グレモン連動バーがグレモンハンドルと見込み方向において重なる位置に配置されている場合と比べて、サッシ障子が吊元を軸として回転した際に、戸先框から突出する被係止部が描くサッシ枠に膨らむ円弧状の軌跡を小さくできる。このため、被係止部とサッシ枠との間のクリアランスを小さくできる。

これにより、戸先框とサッシ枠との間隔を小さくすることができて、サッシの断熱性能を向上させることができる。

[0009] 本発明の第2態様は、上記第1態様のグレモンハンドル構造において、前記グレモンハンドルの少なくとも一部と、前記グレモン連動バーの少なくとも一部とは、見付け方向において重なる位置に設けられることが好ましい。

上記第2態様のグレモンハンドル構造によれば、グレモンハンドルとグレモン連動バーとを合わせた見付け方向の寸法を小さくできるため、戸先框の見付け方向の寸法を小さくでき、サッシの断熱性能を向上させることができる。

[0010] 本発明の第3態様は、上記第2態様のグレモンハンドル構造において、前記連動部は、板面を含むプレートを有し、該プレートは、前記板面が見付け方向に対して角度を有するように配置され、前記見込み方向における中間部に段部を有し、前記段部よりも室内側の部分に前記グレモンハンドルが連結され、前記段部よりも室外側の部分に前記グレモン連動バーが連結されていて、前記段部よりも室外側の部分は、前記段部よりも室内側の部分と比べて、前記サッシ枠との間の距離が大きいことが好ましい。

上記第3態様のグレモンハンドル構造によれば、グレモンハンドルの少なくとも一部と、グレモン連動バーの少なくとも一部とが見付け方向において重なる位置に設けられる場合にも、グレモンハンドルとグレモン連動バーと連結することができる。従って、グレモンハンドルの操作によって確実にグレモン連動バーを連動させることができる。

[0011] 本発明の第4態様は、サッシであって、上記第1～第3態様のいずれかに記載のグレモンハンドル構造が設けられている。

本発明の第5態様は、上記第4態様のサッシにおいて、前記サッシ枠は、前記戸先框の室内側において、該戸先框と見込み方向において重なるように配置された框隠し部を有していることが好ましい。

上記第4および第5態様のサッシによれば、サッシの断熱性能をより向上させることができる。

発明の効果

[0012] 上記本発明に係る態様によれば、グレモン連動バーは、見込み方向においてグレモンハンドルよりも室外側に配置されている。これにより、グレモン連動バーがグレモンハンドルと見込み方向において重なる位置に配置されている場合と比べて、サッシ障子が吊元を軸として回動した際に、戸先框から突出する被係止部が描くサッシ枠に膨らむ円弧状の軌跡を小さくできる。そのため、被係止部とサッシ枠との間のクリアランスを小さくできる。

これにより、戸先框とサッシ枠との間隔を小さくすることができて、サッシの断熱性能を向上させることができる。

図面の簡単な説明

[0013] [図1]本発明の実施形態によるサッシの一例を示す図で室内側から見た正面図である。

[図2]図1のA-A線断面図である。

[図3]図2のB方向矢視図である。

[図4]図2のC方向矢視図である。

発明を実施するための形態

[0014] 以下、本発明の実施形態によるグレモンハンドル構造およびグレモンハンドル構造が設けられたサッシについて、図1～図4に基づいて説明する。

図1に示すように、本実施形態によるサッシ1は、縦切り出し窓のアルミニウムと樹脂との複合のサッシである。サッシ1は、建物11の開口部12に固定されたサッシ枠2と、サッシ枠2の内部に上下方向（図中の矢印Dの方向）に延びる吊元3aを軸として回動可能に取り付けられるサッシ障子3と、を備えている。

[0015] サッシ枠 2 は、開口部 1 2 の縁部に沿った矩形状に形成されていて、見付け方向（図中の矢印 E の方向）に延在する上枠 2 1 および下枠 2 2 と、上下方向に延在する一対の縦枠 4, 2 3 と、を有している。ここで、一対の縦枠 4, 2 3 のうち、サッシ障子 3 が開口部 1 2 を閉鎖した状態において、サッシ障子 3 の戸先框 5 に対向する縦枠 4 を第 1 縦枠 4 とし、サッシ障子 3 の吊元框 3 3 と対向する縦枠 2 3 を第 2 縦枠 2 3 として以下説明する。

[0016] サッシ障子 3 は、見付け方向に延在する上框 3 1 および下框 3 2 と、上下方向に延在する戸先框 5 および吊元框 3 3 と、これらの框 5, 3 1 ~ 3 3 の内側に配置されるガラス 3 4 と、を有している。

ここで、サッシ枠 2 の第 1 縦枠 4 およびサッシ障子 3 の戸先框 5 以外は、公知のものとして以下説明する。

[0017] 図 2 に示すように、第 1 縦枠 4 は、建物 1 1 に固定されて板面が見付け方向を向く（すなわち、板面が見付け方向に対して角度を有するように配置される）板状の本体部 4 1 と、本体部 4 1 に支持された框隠し部 4 2 と、を有している。

本体部 4 1 および框隠し部 4 2 は、いずれもサッシ枠 2 の全高さにわたって延在する部材である。本体部 4 1 は、アルミニウムなどの金属を材料として形成されていて、框隠し部 4 2 は、本体部 4 1 を形成する材料よりも熱伝導率の低いポリ塩化ビニル（PVC）などの樹脂を材料として形成されている。

框隠し部 4 2 は、サッシ障子 3 が開口部 1 2 を閉鎖している状態において、戸先框 5 の室内 1 4 側で戸先框 5 と見込み方向（図中の矢印 F の方向）に重なるように配置されている。

[0018] 戸先框 5 は、室外 1 3 側に配置される室外側型材 5 1 と、室外側型材 5 1 の室内 1 4 側に配置される室内側型材 5 2 と、を有している。

室外側型材 5 1 および室内側型材 5 2 は、いずれもサッシ障子 3 の全高さにわたって延在する部材である。室外側型材 5 1 は、アルミニウムなどの金属を材料として形成されていて、室内側型材 5 2 は、室外側型材 5 1 を形成

する材料よりも熱伝導率の低いポリ塩化ビニル（PVC）などの樹脂を材料として形成されている。

[0019] 室外側型材 51 は、板面が見付け方向を向き、見込み方向の寸法が戸先框 5 の見込み方向の寸法と略同じ第 1 板部 53 と、板面が見付け方向を向き、第 1 板部 53 よりも見込み方向の寸法が小さい第 2 板部 54 と、を有している。ここで、板面が見付け方向を向くとは、板面が見付け方向に対して角度を有するように配置されることをいう。

第 1 板部 53 には、見込み方向の中間部に、室内側型材 52 と係合可能な係合部 53a が形成されている。係合部 53a よりも室内 14 側に位置する第 1 板部 53 の部分は、室内側型材 52 の第 1 縦枠 4 に対向する端面を押さえるように構成されている。第 1 板部 53 には、上下方向に延びる第 1 長孔 55 が形成されている。

第 2 板部 54 は、係合部 53a よりも室外 13 側に位置する第 1 板部 53 の部分の第 1 縦枠 4 に対向する面と重なるように設けられている。第 2 板部 54 には、上下方向に延びる第 2 長孔 56 および第 3 長孔 57 が上下方向に間隔をあけて形成されている。

なお、第 1 長孔 55、第 2 長孔 56 および第 3 長孔 57 は、上下方向の長さが略同じ寸法となるように形成されている。

これらの第 1 板部 53 および第 2 板部 54 は、サッシ障子 3 の全高さにわたって延在している。

[0020] 本実施形態によるグレモンハンドル構造 10 は、戸先框 5 の室内側型材 52 に設けられたグレモンハンドル 6 と、戸先框 5 の室外側型材 51 の第 1 縦枠 4 側に設けられたグレモン連動バー 7 と、グレモンハンドル 6 にグレモン連動バー 7 を連動させる連動部 8 と、第 1 縦枠 4 に設けられてグレモン連動バー 7 を係止可能な係止部 9 と、を備えている。

[0021] グレモンハンドル 6 は、室内側型材 52 の上下方向の中間部に設けられていて、室内側型材 52 から吊元 3a 側へ突出し使用者が把持可能な把持部 61 と、把持部 61 と連結され室内側型材 52 の内部に配置されるインナー部

62と、を有している。

グレモンハンドル6は、把持部61とインナー部62との連結部に位置し見込み方向に延びる軸6aを中心に回転可能に構成されている。そして、軸6aを中心に把持部61が下側に向かって回転するとインナー部62が上側へ向かって回転し、軸6aを中心に把持部61が上側へ向かって回転するとインナー部62が下側へ向かって回転するように構成されている。

[0022] インナー部62は、戸先框5の第1板部53に形成された第1長孔55に挿通されたビスなどの第1固定具82を介して、連動部8のプレート81と連結されている。この第1固定具82は、第1長孔55内を上下方向に移動可能に構成されている。

[0023] グレモン連動バー7は、グレモンハンドル6よりも上部に設けられていて、見付け方向に延在する基部71と、基部71の第1縦枠4側の端部に設けられたピン（被係止部）72と、を有している。

基部71は、ピン72が設けられている側と反対側の端部が、戸先框5の第2板部54に形成された第2長孔56に挿入されている。基部71は、第2長孔56内を上下方向に移動可能に構成されている。

ピン72は、基部71よりも径が大きく形成されていて、第2長孔56に挿通できないように構成されている。

このようなグレモン連動バー7は、ピン72が設けられている側が戸先框5の第2板部54から第1縦枠4側に突出している。

[0024] 連動部8は、戸先框5の第1板部53および第2板部54の第1縦枠4側に設けられたプレート81と、第1板部53と第2板部54との間に設けられてプレート81とグレモン連動バー7の基部71とを連結する連結材83と、を有している。

プレート81は、板面が見付け方向を向く略矩形状の板材で、見込み方向の中間部に段部81aが形成されている。プレート81は、段部81aより室外13側の部分81bが、段部81aより室内14側の部分81cよりも第1縦枠4と離間している。すなわち、段部81aより室外13側の部分8

1 bの方が、第1縦枠4との間の距離が大きい。

連結材83は、戸先框5の第2板部54に形成された第3長孔57に挿通されたビスなどの第2固定具84を介して、連動部8のプレート81と連結されている。この第2固定具84は、第3長孔57内を上下方向に移動可能に構成されている。

[0025] 係止部9は、グレモン連動バー7と対応する高さにおいて第1縦枠4の本体部41に固定されていて、板面が見付け方向を向く板部91と、板部91を第1縦枠4に固定する固定部92と、有している。なお、板部91と固定部92とは一体に形成されていてもよいし、別の部材で構成されていてもよい。

係止部9は、第1縦枠4の本体部41に固定されると、板部91が第1縦枠4の本体部41と見付け方向に離間している。板部91と第1縦枠4の本体部41との間隔は、ピン72の見付け方向の寸法よりも大きくなるように設定されている。

[0026] また、板部91は、見込み方向の略中央部よりも室内14側が、室外13側よりも下方に突出しているとともに、見込み方向の略中央部よりも室外13側に下部に開口する切欠き部93が形成されている。切欠き部93の見込み方向の寸法は、グレモン連動バー7の基部71の見込み方向の寸法よりも大きく、ピン72の見込み方向の寸法よりも小さくなるように設定されている。

そして、係止部9は、第1縦枠4の本体部41との間に下側からグレモン連動バー7のピン72が挿入され、係止部9の切り込み93にグレモン連動バー7の基部71が挿入されると、ピン72を係止して、グレモン連動バー7の見付け方向および見込み方向の移動を拘束可能に構成されている。

[0027] このようなグレモンハンドル構造10では、サッシ障子3が開口部12を閉鎖した状態で、使用者がグレモンハンドル6の把持部61をその軸6aを中心に下側へ回動させると、インナー部62が上側へ移動し、これに伴いプレート81も上側へ移動する。そして、プレート81が上側へ移動すること

で連結材 8 3 を介してグレモン連動バー 7 も上側へ移動する。これにより、係止部 9 の板部 9 1 と第 1 縦枠 4 との間にピン 7 2 が挿入され、ピン 7 2 が係止部 9 に係止されて施錠される。

また、施錠された状態から、使用者が把持部 6 1 をその軸 6 a を中心に上側へ回転させると、インナー部 6 2 が下側へ移動し、これに伴いプレート 8 1 も下側へ移動する。そして、プレート 8 1 が下側へ移動することで連結材 8 3 を介してグレモン連動バー 7 も下側へ移動する。これにより、板部 9 1 と第 1 縦枠 4 との間からピン 7 2 が外れて、解錠される。

[0028] 次に、上述したグレモンハンドル構造およびサッシの作用・効果について図面を用いて説明する。

本実施形態によるグレモンハンドル構造 1 0 では、グレモン連動バー 7 は、グレモンハンドル 6 よりも見込み方向の室外 1 3 側に配置されている。これにより、グレモン連動バー 7 がグレモンハンドル 6 と見込み方向で重なる位置に配置されている場合と比べて、サッシ障子 3 が吊元 3 a を軸として回転した際に、グレモン連動バー 7 のピン 7 2 が描く第 1 縦枠 4 側に膨らむ円弧状の軌跡を小さくできる。そのため、ピン 7 2 と第 1 縦枠 4 との間のクリアランスを小さくできる。

従って、戸先枠 5 と第 1 縦枠 4 との間隔を小さくすることができ、サッシ 1 の断熱性能を向上させることができる。

[0029] また、グレモンハンドル 6 のインナー部 6 2 の一部と、グレモン連動バー 7 の基部 7 1 の一部と、が見付け方向で重なる位置に設けられていることにより、インナー部 6 2 からグレモン連動バー 7 のピン 7 2 までの寸法を小さくできる。そのため、戸先枠 5 の見付け方向の寸法を小さくすることができ、サッシ 1 の断熱性能をより向上させることができる。

また、戸先枠 5 の見付け方向の寸法を小さくすることにより、ガラス 3 4 の面積を大きくできる。そのため、ガラス 3 4 からより多く採光できるとともに、眺望性をよくすることができる。

また、第 1 縦枠 4 は、框隠し部 4 2 を有することにより、サッシ 1 の断熱

性能をより向上させることができる。

[0030] また、プレート 8 1 には、見込み方向の中間部に段部 8 1 a が形成されている。これにより、グレモンハンドル 6 のインナー部 6 2 の一部と、グレモン連動バー 7 の基部 7 1 の一部と、が見付け方向で重なる位置に設けられている場合にも、グレモンハンドル 6 のインナー部 6 2 とグレモン連動バー 7 の基部 7 1 とを、プレート 8 1 および連結材 8 3 を介して確実に連結することができる。

[0031] 以上、本発明によるグレモンハンドル構造およびグレモンハンドル構造が設けられたサッシの実施形態について説明したが、本発明は上記の実施形態に限定されるものではなく、その趣旨を逸脱しない範囲で適宜変更可能である。

例えば、上記の実施形態では、サッシ 1 は、縦送り出し窓としているが、横滑り出し窓としてもよい。

また、上記の実施形態では、グレモン連動バー 7 の先端部に被係止部としてピン 7 2 が設けられていて、第 1 縦枠 4 に係止部 9 として切欠き部 9 3 が形成された板部 9 1 が設けられているが、グレモン連動バー 7 が第 1 縦枠 4 に係止される形態は上記以外の形態としてもよい。

[0032] また、上記の実施形態では、プレート 8 1 には、段部 8 1 a が形成されているが、段部 8 1 a が形成されていなくてもよい。

また、上記の実施形態では、グレモンハンドル 6 のインナー部 6 2 の一部と、グレモン連動バー 7 の基部 7 1 の一部とが、見付け方向で重なる位置に設けられているが、このように設けられていなくてもよい。

また、上記の実施形態では、第 1 縦枠 4 には、框隠し部 4 2 が設けられているが、框隠し部 4 2 が設けられていなくてもよい。

符号の説明

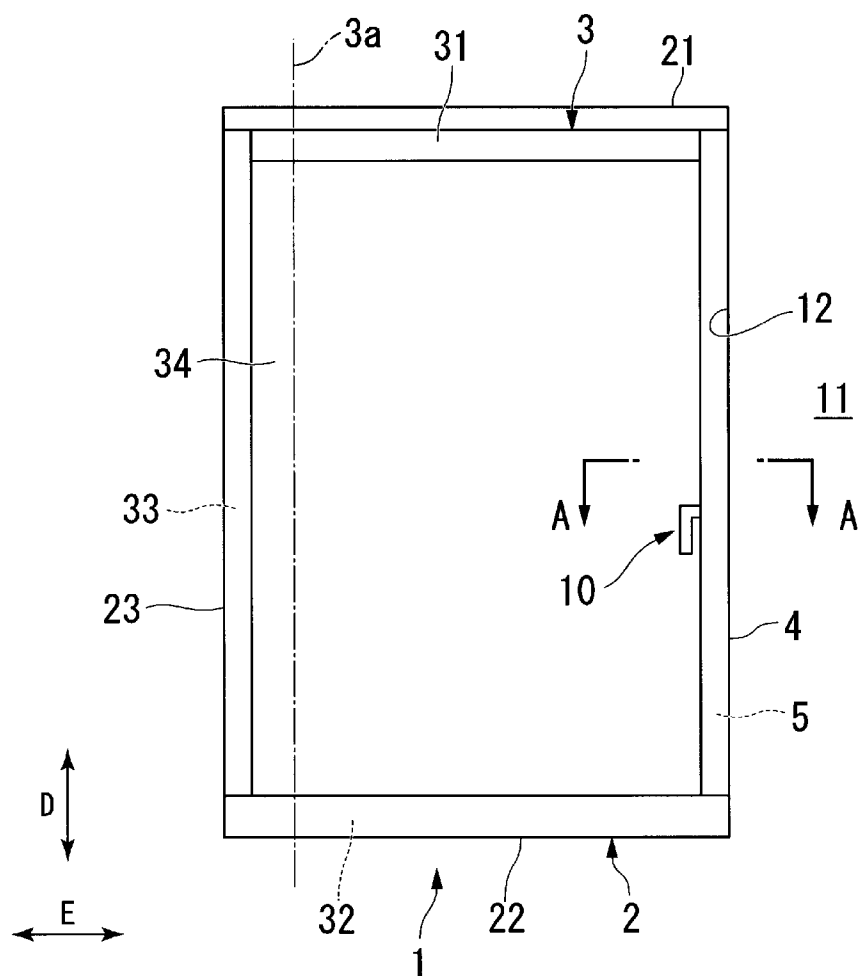
- [0033]
- 1 サッシ
 - 2 サッシ枠
 - 3 サッシ障子

- 3 a 吊元
- 4 第1縦枠
- 5 戸先框
- 6 グレモンハンドル
- 7 グレモン連動バー
- 8 連動部
- 9 係止部
- 10 グレモンハンドル構造
- 12 開口部
- 13 室外
- 14 室内
- 42 框隠し部
- 61 把持部
- 72 ピン（被係止部）
- 81 プレート
- 81 a 段部

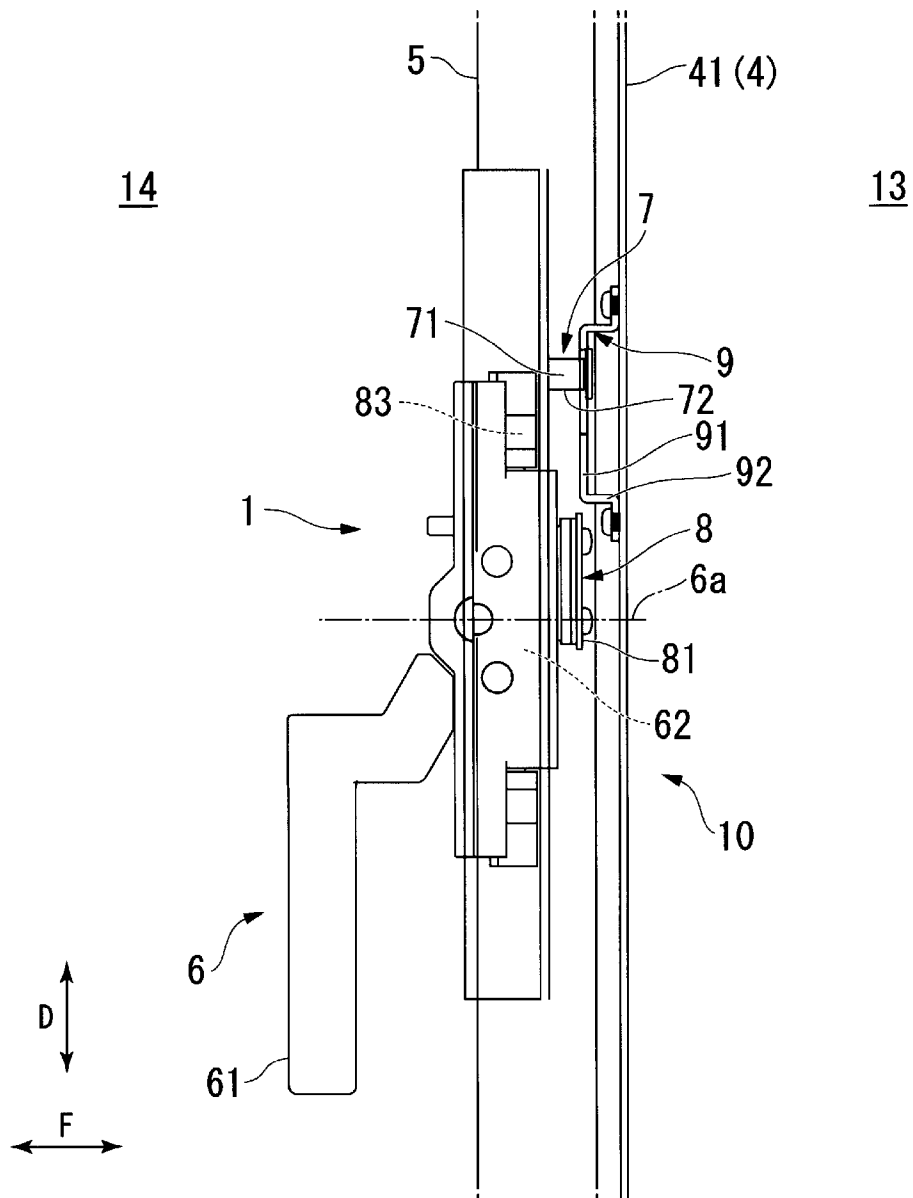
請求の範囲

- [請求項1] サッシ枠と、該サッシ枠に吊元を軸として回動可能に支持されるサッシ障子とを備えるサッシに設けられるグレモンハンドル構造において、
- 前記サッシ障子の戸先框の室内側見込み面に設けられたグレモンハンドルと、
- 前記戸先框から前記サッシ枠側へ突出し、前記サッシ障子と前記サッシ枠とを係止可能な被係止部が設けられ、前記グレモンハンドルよりも見込み方向において室外側に設けられたグレモン連動バーと、
- 該グレモン連動バーを前記グレモンハンドルに連動させる連動部と、を備える、
- グレモンハンドル構造。
- [請求項2] 前記グレモンハンドルの少なくとも一部と、前記グレモン連動バーの少なくとも一部とは、見付け方向において重なる位置に設けられる、請求項1に記載のグレモンハンドル構造。
- [請求項3] 前記連動部は、板面を含むプレートを有し、
- 該プレートは、前記板面が見付け方向に対して角度を有するように配置され、前記見込み方向における中間部に段部を有し、前記段部よりも室内側の部分に前記グレモンハンドルが連結され、前記段部よりも室外側の部分に前記グレモン連動バーが連結されていて、前記段部よりも室外側の部分は、前記段部よりも室内側の部分と比べて、前記サッシ枠との間の距離が大きい、請求項2に記載のグレモンハンドル構造。
- [請求項4] 請求項1～3のいずれか一項に記載のグレモンハンドル構造が設けられた、サッシ。
- [請求項5] 前記サッシ枠は、前記戸先框の室内側において、該戸先框と見込み方向において重なるように配置された框隠し部を有している、請求項4に記載のサッシ。

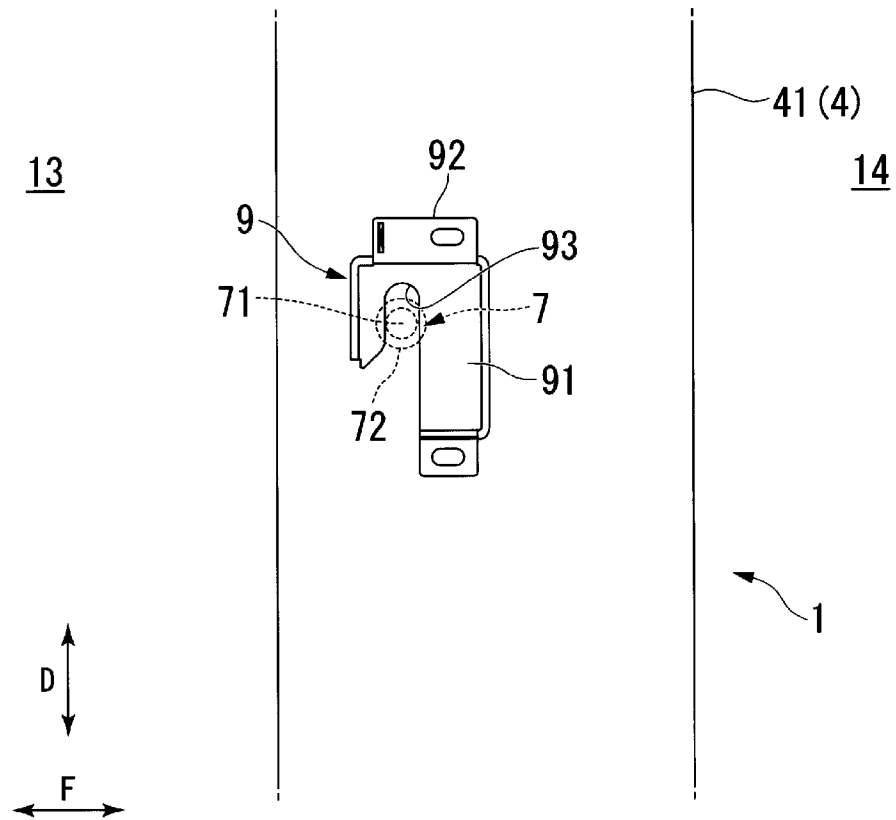
[図1]



[図3]



[図4]



INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2015/053532

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER

E05C1/06(2006.01)i, E05B65/06(2006.01)i

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

E05C1/06, E05B65/06

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Jitsuyo Shinan Koho	1922-1996	Jitsuyo Shinan Toroku Koho	1996-2015
Kokai Jitsuyo Shinan Koho	1971-2015	Toroku Jitsuyo Shinan Koho	1994-2015

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X A	JP 2001-55854 A (YKK Architectural Products Inc.), 27 February 2001 (27.02.2001), paragraphs [0009] to [0024]; all drawings (Family: none)	1, 2, 4, 5 3
A	Microfilm of the specification and drawings annexed to the request of Japanese Utility Model Application No. 95832/1977 (Laid-open No. 23096/1979) (Matsushita Electric Works, Ltd.), 15 February 1979 (15.02.1979), fig. 1 to 3 (Family: none)	1-5

☐ Further documents are listed in the continuation of Box C.

☐ See patent family annex.

* Special categories of cited documents:

"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance

"E" earlier application or patent but published on or after the international filing date

"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)

"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means

"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed

"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention

"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone

"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art

"&" document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search
02 April 2015 (02.04.15)

Date of mailing of the international search report
14 April 2015 (14.04.15)

Name and mailing address of the ISA/
Japan Patent Office
3-4-3, Kasumigaseki, Chiyoda-ku,
Tokyo 100-8915, Japan

Authorized officer

Telephone No.

A. 発明の属する分野の分類（国際特許分類（I P C））

Int.Cl. E05C1/06(2006.01)i, E05B65/06(2006.01)i

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料（国際特許分類（I P C））

Int.Cl. E05C1/06, E05B65/06

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報	1 9 2 2 - 1 9 9 6 年
日本国公開実用新案公報	1 9 7 1 - 2 0 1 5 年
日本国実用新案登録公報	1 9 9 6 - 2 0 1 5 年
日本国登録実用新案公報	1 9 9 4 - 2 0 1 5 年

国際調査で使用した電子データベース（データベースの名称、調査に使用した用語）

C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
X A A	JP 2001-55854 A（ワイケイケイアーキテクチュラルプロダクツ株式会社）2001.02.27, [0009]-[0024]、全図（ファミリーなし） 日本国実用新案登録出願 52-95832 号（日本国実用新案登録出願公開 54-23096 号）の願書に添付した明細書及び図面の内容を撮影したマイクロフィルム（松下電工株式会社）1979.02.15, 第1～3図（ファミリーなし）	1, 2, 4, 5 3 1-5

☐ C 欄の続きにも文献が列挙されている。☐ パテントファミリーに関する別紙を参照。

* 引用文献のカテゴリー

「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの
「E」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの
「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献（理由を付す）
「O」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献
「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの
「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの
「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの
「&」同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

0 2 . 0 4 . 2 0 1 5

国際調査報告の発送日

1 4 . 0 4 . 2 0 1 5

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁（I S A / J P）
郵便番号 1 0 0 - 8 9 1 5
東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官（権限のある職員）

佐藤 美紗子

2 R

4 0 1 5

電話番号 0 3 - 3 5 8 1 - 1 1 0 1 内線 3 2 8 5